

## 鉄の記念日 名誉館長講演会

1月9日 [鉄の歴史館]

鉄の歴史館名誉館長の小野寺英輝さん（岩手大学理工学部准教授）による講演が開催されました。明治13（1880）年から明治15（1882）年まで操業した官営金石製鉄所の廃業原因は、これまで「資源埋蔵量の事前調査の不備、高炉の形状の悪さ、焙焼（高炉に入れる鉱石の事前処理）不足、木炭品質の悪さ」といった「過失」が定説とされていましたが、小野寺さんは複数の文献から再検証。それら「過失」を高炉の不調に転嫁して廃業へ誘導するために、意図的に品質の低い鉱石を使用した「故意」の操作があった。その背景には、まだ大量の鉄を必要としていない社会や政治的な状況があった、と結論付けました。



官営製鉄所の設備はその後払い下げられ、民間製鉄業の発展に大いに寄与しました

「紙本両鉄鉱山御山内並高炉之図」の原本も公開されました

## しごと・くらしサポートセンター開所式

1月15日 [イオンタウン釜石]



キッズスペースや個別相談ブースを完備し、誰もが利用しやすい施設としています

## 県公衆衛生功労者表彰（県知事表彰）

### 県食生活改善推進員団体連絡協議会会長表彰 受賞報告

1月15日 [市長室]

食生活改善による健康な地域づくり活動について表彰を受けた食生活改善推進員の2人が、野田市長へ受賞報告をしました。

公衆衛生功労者表彰（県知事表彰）を受けた市食生活改善推進員協議会（食改協）会長の佐々木ひろ子さんは「まだまだ釜石には健康課題が山積している。これからも会員一同頑張っていきたい」と話しました。

県食改協会長表彰を受けた食改協監事の前川ケイ子さんは「コロナ禍で誰かと一緒に食べるということが難しい状況だが、これからも健康的な食生活を伝えていきたい」と話しました。



左2番目から順に佐々木さん、前川さん

## 民生委員・児童委員 委嘱状伝達式

1月25日 [市長室]

新たに6人の民生委員・児童委員が就任し、厚生労働大臣・岩手県知事からの委嘱状が伝達されました。委嘱状を受け取った及川さんは「復興住宅が多い地区なので、精力的に声掛けていきたい」と話しました。伝達を受けたのは次の皆さんです。

氏名	担当
藤澤 敏さん	浜町3丁目の一部
及川 幸子さん	只越町
堰合 美和子さん	大只越町2丁目の一部
大和田 サノ子さん	上中島復興住宅2~5号棟
佐々世津子さん	大平町2丁目
佐々木 浩子さん	甲子町15地割の一部、16地割

※佐々さんと佐々木さんには後日伝達



左2番目から順に藤澤さん、及川さん、堰合さん、大和田さん  
令和2年11月26日から令和4年11月30日までの任期を務めます

## 第11回文書デザインコンテスト 優秀デザイン賞を受賞

11月16日 [釜石祥雲支援学校]

釜石祥雲支援学校高等部1年の佐々木俊亮さんが日本情報処理検定協会の主催するコンテストで優秀デザイン賞を受賞しました。

佐々木さんは文書デザイン検定に興味を持つ中でこのコンテストを知り「社会と情報」の教科を担当する佐藤修子教諭らの指導を受けながら4ヶ月近い時間をかけて作品を制作。地元の観光や伝統を取り上げる応募者が多い中、募集テーマである「地域の新発見」から株式会社コバリオンが製造する新素材コバリオンを取り上げました。

「鉄のまち釜石」を念頭に、赤色が目に飛び込むようなレイアウト、炎を連想させる「かがやく」という言葉を盛り込んだという佐々木さん。「練習を重ねて来年のコンテストにも挑戦したい。釜石にはまだまだPRしたいものがある」と意気込みました。



作品作りのために行なった取材や写真撮影もいい経験になりました



受賞作品

## 「大震災かまいしの伝承者」基礎研修

12月12日 [チームスマイル・釜石PIT]

東日本大震災の出来事や教訓などを語り継ぐ「大震災かまいしの伝承者」（第2期）に、中学生から70代までの29人が応募。基礎研修では、釜石市防災市民憲章に込められた意味や、地震のメカニズムと津波被害の特質などを学習した後「将来に伝えたい教訓は何か」をテーマにグループで話し合いました。「日頃からの地域との関わりが大事」「自分の命は自分で守る意識を持つ」「伝える場をつくる」などさまざまな意見が出され、伝えることの大切さを再確認しました。



中高生の参加が多く見られた基礎研修

## 被災地支援活動への感謝状贈呈

12月21日 [遠野緑峰高校体育馆]

（有）駒形モータース（遠野市）と遠野緑峰高校は東日本大震災の被災地支援として沿岸市町村にシクラメンの寄贈を行っており、釜石市にも毎年花を寄贈しています。市はこの取り組みに対して、感謝状を贈呈しました。野田市長が「皆さんのが育てた花で被災した釜石市民は和ませていただいた。これからも被災した方へ温かい応援をお願いしたい」と感謝を伝えると、遠野緑峰高校生徒会長の宇方秀斗さんは「私たちの花で喜んでもらえて嬉しい。今後も取り組みを継続したい」と話しました。



（有）駒形モータースの佐々木会長（左から2番目）は沿岸地域で大量のがれきを見て感じた「何かできないか」という思いがこの取り組みにつながったと話しました



「空想参道 くうそう あつまる あふれる かなえる」  
の文字がデザインされています

## sofo cafe壁アート～小林覚さんの文字をつくる～

12月26日、27日 [sofo cafe（釜石大観音仲見世商店街）]

「アートでまちをカラフルにしたい」「かまいしにアートなシンボルを作りたい」をテーマに活動する市民グループ「ゼロスポット」が、市民に参加を呼び掛けて壁アートを制作。釜石出身のアーティスト小林覚さんがデザインした作品を描きました。参加した小学生は「色を混ぜて作るのが難しい」と言いながらも、笑顔で壁画用絵具を配色して見本の色を作りました。見る人の心も明るくするようにと願いを込めて描かれた壁アートは、駐車場側から見ることができます。

※このプロジェクトは、さんりく基金の助成を受けて実施したもの